

平成 29 年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 29 年 4 月 20 日（木）14：00～15：40

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：5 名 島袋 幸代（沖縄県立中部病院）、樋口美智子（那覇市立病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、平良芳子（県立八重山病院）、佐渡山英子（県立宮古病院）大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：1 名 増田 昌人（琉球大学医学部附属病院）、

陪席者：2 名 伊良皆香代（県立八重山病院）、井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 28 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 28 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（1～3 月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、島袋部会長より、1～3 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について、報告があった。活動日誌の参加者の集計については、大久保委員が修正し部会へ提案することが了承された。

3. がん相談件数（1～3 月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4, 3-5 に基づき、各委員より、1～3 月の各拠点病院のがん相談件数について、報告があった。北部地区医師会病院では、4 月のがん相談件数より、退院支援はカウントせずに集計するとの報告があった。大久保委員より、国立がんセンターから提案された相談シートは、退院調整のあるなしの記載もあり、がん相談と退院調整を分けて集計できるので、うまく活用していただきたいとの周知があった。中部病院では、2 月から欠員があり相談件数が減っている状況であるが、相談シートの集計については、退院調整の件数を省くようにしていくとの報告があった。那覇市立病院では、疾患別でがん患者さんはがん患者さんで管理しており、3 月までは退院支援も集計に入っているため、4 月からは省いて集計するとの報告があった。

八重山病院でも、1 年くらいがん相談件数を集計してきているとのことで、次回の 7 月部会で、4～6 月分のがん相談件数の報告を行うことになった。宮古病院でも、毎月集計をしており、同じく次回の部会から、報告を行うことになった。

4. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策 1 関連】地域の療養情報 2016 年版について

資料 4 に基づき、大久保委員より、地域の療養情報（がんサポートハンドブック）2017 年版の配布について、県健康長寿課へ配布案を提出済みであるとの報告があった。事務方より、拠点病院への配布数は前回部会で確認し、過去 2 年間追加の要望のあった病院には聞き取りをして冊数を修正したものを県へ提出しているとの報告があり、県として、各市町村への配布数を増やしたり、診療所や薬局への配布を無くし、その分ウェブ上で見ていただきたい意向があることも報告された。

(2) 【施策3】患者サロンネットワーク会について

資料5に基づき、大久保委員より、3月4日午前中、患者サロンネットワークにて、患者会2団体、拠点病院含む4病院からがん相談員4名、ハローワーク那覇2名の計8名の参加があり、ハローワーク那覇で始まった「就労ナビゲーション」の講話もあった。患者会からは、相談支援センターに繋ぐときの困りごとなどの質問があった。双方で、窓口を紹介する時には、一報を入れあって連絡し合えるとよいなどの意見があり、ぴんくばんさあ(乳がんのがん患者会)さんからは、次年度も就労支援のテーマで開催してほしいとの要望があった。

(3) 【施策6】相談支援センター・チェックリストについて

資料6に基づき、大久保委員より、4拠点病院から回答を得たものを取りまとめた一覧表の報告があった。IC同席やパンフレット設置、ホームページ掲載などは各病院とも行っているが、「(患者サロンや勉強会の)開催案内をリンクナースにML配信」、「QA活動(Quality Assurance:品質保証,信頼性保証,品質を保証するための仕組み作り)」、「地域ケアマネ等の研修会でPR」、「病院のある地域の市町村役場に出向いた」、「挨拶回り」などは行われていなかった。沖縄県の状況にそぐわないものは、合うように沖縄バージョンに変え、チェックが少なかった項目は、部会でも検討していくことが了承された。よりよい相談対応に向けたQA活動を行えるよう、モニタリングや録音体制、相談者からのフィードバック体制ができるようにすること、リンクナースへの情報発信は院内のメーリング配信を活用した情報提供がいいのではないかなどの意見が出された。また、大久保委員から、宮古病院、八重山病院にもチェックリストを提出してくれるよう依頼があった。

【協議事項】

1. 平成29年度の部会事業の行動計画について

資料7-1の活動計画に基づき、大久保委員より、概ねは昨年度の第4回部会で報告したものとほぼ同じであるが、【施策1】の文言を「～2018年版の作成に協力する。」と変更しており、地域の療養情報2018年版の作成に、ハンドブック作成担当の事務方を配属することになったため、部会と切り離してハンドブックの作成を行うことになったとの報告があった。よって、部会へWGメンバーの推薦依頼や協力依頼があるので、その時はご協力お願いしたいことと、配付は相談員からが多いと思われるので計画に残しておくとの周知があった。また、手つかずであった認知度調査・満足度調査を具体的に進めること、相談員研修が復活して持ち回りで開催されること、などが報告された。

資料7-2の行動計画(タイムスケジュール)に基づき、大久保委員より報告があり、【施策4】就労支援関係者との意見交換会の開催では、5/15(月)にハローワーク見学を予定しており、拠点病院以外の専門病院にもハローワークから案内状が届くことが周知された。

事務方より、【施策2】がん相談支援センターの広報では、普及啓発部会主催のラジオ番組(チャットセッションL)を9/26(火)か9/28(木)に予定しているとの報告があり、今年度は、那覇市立病院のMSWさんにゲスト出演を依頼することになった。

【施策7】がん相談員実務者研修会の運営では、障害を持つ方が「がん」になった時、障害手帳の取得の仕方、その患者さんの背景・事例検討・共有といったことから、正しく新しい情報を提供してよりよい治療や療養の選択ができるような観点で、以下の3つのテーマによる研修を行うことが、協議の上決

定した。

- ①「知的障害者とがん（八重山病院の精神遅滞者の事例から～）」：琉大病院・八重山病院
- ②「精神障害者とがん（PSW の事例，院内の事例，オリブ山病院より事例提供いただく～）」
：中部病院・北部地区医師会病院
- ③「高齢者（認知症患者）とがん（院内の事例より）」：那覇市立病院・宮古病院

琉大病院と八重山病院の共催、那覇市立病院と宮古病院の共催、中部病院と北部地区医師会病院が共催として、2病院がペアで開催すること、研修会会場は、本島の琉大病院、中部病院、那覇市立病院とすること、開催時期は、9月、11月、1月とすることも了承された。

2. 平成 29 年度の部会事業の予算について

資料 8-1, 8-2 に基づき、大久保委員より報告があり、がん相談員の研修会の費用は、那覇市立病院、中部病院に負担いただくことで了承された。

3. がん相談記録シート、集計報告について

資料 9 に基づき、大久保委員より報告があり、基本的には、この相談記入シートを活用し、追加ができるのであれば、5-1. 相談者●相談支援センターに関する情報入手経路に、「がんサポートハンドブック」を追加することが了承された。今後、部会で報告をする際には、部会全体のデータとして集計しやすいように、今のデータをエクセルに記入して提出することも、合わせて了承された。

4. 国立がん研究センター主催研修参加の確認について

資料 10 について、各病院より参加状況の報告があり、琉大病院の大久保委員は「アップデート研修(Eラーニング)」と、出来れば「スキルアップ研修 相談対応モニタリング研修」の受講を予定、島袋部会長は、「スキルアップ研修 情報から始まるがん相談支援」の受講を予定している。「基礎研修(3)」は、中部病院 2 名、那覇市立病院 2 名、北部地区医師会病院 1 名の受講を予定している。

「指導者研修」は、3 名 1 組の集合研修で琉大・那覇市立・中部病院で計 6 名が既に修了しているので、宮古病院、八重山病院、北部地区医師会病院の 3 名 1 組で、2 年後の平成 31 年度開催の研修を受講していただきたいとの依頼があった。その他、樋口委員より、個別に「継続研修 認定更新コース(Eラーニング)」も受講する必要があるとの周知があった。

5. その他

(1) 相談支援部会委員の選定について

協議の結果、今年度はひとまず、6 拠点病院の方のみで部会事業を進めていくことになり、他の病院の方は、WG などで必要に応じて招聘することが、協議の上了承された。樋口委員より、那覇市立病院から、島袋恭子さんを相談支援部会委員として参加し 2 名体制としたいとの提案があり、了承された。

(2) 次回、平成 29 年度第 2 回相談支援部会開催日について

第 1 候補日： 平成 29 年 7 月 20 日(木)

第 2 候補日： 平成 29 年 7 月 27 日(木)